

長岡工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	応用数学ⅡB	
科目基礎情報							
科目番号	0112			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械工学科			対象学年	5		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	山本直樹(著), 複素関数論の基礎(裳華房, 2015)						
担当教員	佐藤 雅尚						
到達目標							
(科目コード: 11076、英語名: Applied Mathematics IIB、授業計画の週は回と読替えること) この科目は長岡高専の教育目標の(C)と主体的に関わる。この科目の到達目標と、各到達目標と長岡高専の学習・教育目標との関連を、到達目標、評価の重み、学習・教育目標との関連の順で次に示す。 ①複素数の演算を自由自在に計算できる。35%(c1) ②複素変数の初等関数の定義・性質を正確に説明できる。35% (c1) ③複素関数が正則であるとはどういうことなのかを説明できる。30% (c1)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	複素数の演算を自由自在に計算できる。		複素数の演算を自由自在に計算できる。		複素数の演算を自由自在に概ね計算できる。		左記に達していない。
評価項目2	複素変数の初等関数の定義・性質を正確に説明できる。		複素変数の初等関数の定義・性質を説明できる。		複素変数の初等関数の定義・性質を概ね説明できる。		左記に達していない。
評価項目3	複素関数が正則であるとはどういうことなのかを説明できる。		複素関数が正則であるとはどういうことなのかを説明できる。		複素関数が正則であるとはどういうことなのかを概ね説明できる。		左記に達していない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	複素数・複素関数の取り扱いと複素微分について学ぶ。 関数を取り扱うときは、実関数だけではなく、複素関数まで拡大して考えた方が便利ことがある。しかも、実関数の世界では隠されていた本質的な事柄が、複素関数の世界の中にあらわにみえることがある。本講義では、そのような神秘的な世界を学ぶのに必要な複素数・複素関数の基礎について解説する。 ○関連する科目: 応用数学ⅡA (前期履修)、応用解析 (専1履修)						
授業の進め方・方法	複素数・複素関数の取り扱いと複素微分について学び、その理解度を定期試験およびその他試験・レポートによって評価する。再試験は行わない。						
注意点	苦手意識を持たずに複素数・複素関数に慣れ親しみ、実数・実関数と同じように自由に取り扱えるようになってほしい。再試験は行わない。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	複素数の構成、複素数の代数演算、複素平面		複素数の構成、複素数の代数演算、複素平面が理解できる。		
		2週	共役複素数、極座標とオイラーの公式		共役複素数、極座標とオイラーの公式が理解できる。		
		3週	複素数の演算の幾何的意味		複素数の演算の幾何的意味が理解できる。		
		4週	複素数の応用		複素数の応用が理解できる。		
		5週	複素関数の視覚化		複素関数の視覚化できる。		
		6週	初等関数		初等関数が理解できる。		
		7週	超越的初等関数 (指数関数と三角関数)		超越的初等関数 (指数関数と三角関数) が理解できる。		
		8週	超越的初等関数 (対数関数とベキ関数)		超越的初等関数 (対数関数とベキ関数) が理解できる。		
	4thQ	9週	複素数の極限操作		複素数の極限操作できる。		
		10週	複素微分の定義		複素微分の定義が理解できる。		
		11週	コーシー・リーマン方程式		コーシー・リーマン方程式が理解できる。		
		12週	初等関数の複素微分、正則関数の逆関数		初等関数の複素微分、正則関数の逆関数が理解できる。		
		13週	複素偏微分		複素偏微分が理解できる。		
		14週	等角写像		等角写像が理解できる。		
		15週	複素関数論		複素関数論が理解できる。		
		16週	期末試験 17週: 試験解説・発展授業		試験時間: 80分		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		試験	その他試験・レポート			合計	
総合評価割合		70	30			100	
基礎的能力		35	15			50	
専門的能力		35	15			50	

分野横断的能力	0	0	0
---------	---	---	---